

手賀沼通信(第331号)

Eメール: nittay@jcom.home.ne.jp
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai

http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/
http://tegatu2.web.fc2.com

新田良昭

今月は弟からの寄稿文です。

石原裕次郎の歌った歌をテーマにしていますが、弟も裕次郎と同じ病を患い、戦っています。

裕次郎をしのびながら書いたのではないかと感じています。

特別寄稿

わが人生に悔いなし(わたしの懐かしい歌9)

新田自然

鏡に映るわが顔に グラスをあげて乾杯を
たった一つの星をたよりに はるばる遠くへ
来たもんだ
長かろうと短かかろうと わが人生に悔いは
ない

(作詞 なかにし礼)

この歌を石原裕次郎がレコーディングしたのは、1987年4月21日のことだ、そして亡くなったのが同年7月17日である、52歳、肝臓がん。その前年彼は体調不良の中をハワイに渡り、別荘で過ごした。高熱や全身倦怠が続く末期がんの中、終日海を眺めて過した。

「とにかくさ、あの叔父貴がソファに体を沈めたまま身動きせずに、いつまでもきりなく海を眺めてるんだよ、もう見ちゃいられなかったよ」(石原良純)。そんな中を2曲もレコーディングするのは、容易なことではなかったろう。彼は自分がガンであることを知らされてなかったようだが、並外れて繊細な男が食事の変化から見て、ただならぬ状態である事に気づかないはずはない、だれも言わない、彼も訊かない、裕次郎とはそういう男だった。

「そんな病状の中で誰がどう強いたのか、それとも弟の方で乗り気になったのか、ハワイ滞在中に弟は「北の旅人」と「わが人生に悔いなし」などという新曲をレコーディングしている。歌った

当人がすぐに亡くなったからいうわけではないが、二つともなんとなく縁起の悪い歌で、特に後者は遺言というか自分のための他愛ない御詠歌みたいな代物で、まき子夫人が聞いて発売を延期したのはよくわかる」(石原慎太郎「弟」)。たぶん彼はプロダクションのため自分の死期を悟ってレコーディングしたのではないかと私は思っている。

私は流行歌手が功成って歌う「人生」という言葉に、ある種の違和感を持っていた。どこか教訓的で、私はここまでやってきたのだ、などと。成功者の立場で歌ったものが多い。周りが勝手に作った歌を、よくもしれっと歌えるものだと感じていた。もっと気になるのは、さらに若い歌手に「人生」などとのたまわれると、「人生」とはそんな生易しいものじゃあねえよ、と言いたくもなったものだ。

裕次郎のこの歌も、歌詞がそれほど彼の個性を表現したものではない、あの「石狩挽歌」(北原ミレイ)や「風の盆恋歌」(石川さゆり)、を作詞した、あのなかにし礼のものとは思えない歌詞だ。たぶん裕次郎から依頼を受け作ったものだろう。彼は偶然の機会で裕次郎と会い、勧められて作詞家の道を歩み始めたのだ。もしこの作詞依頼が他に行っていたら「嫉妬で狂っただろう」とまで言った男だ、間もなく死んでゆく男に捧げる歌として、最大の賛辞を贈るとしたら「わが人生に悔いなし」と、このような詞にならざるを得なかったのだろう。

この曲を取り上げたのは、裕次郎を襲ったこの宿痾は、私にも取り付いて、近くこれで逝くことになるが、彼とは5歳下で、同じ時代を過ごした者として、死を目前にして、「わが人生」を歌うことに納得したい。だが本当に「悔いなし」だったろうか。

「天は二物を与えず」という言葉がある。人はいいところと、良くないところをもって生まれてくるものだという格言だが、天は時々とてつもない美質を、一人の男に与えることがある。足が長く

て恰好がよく、歌がうまく、それはスターの要素でもあるが、人が彼を愛してやまない性格まで与えている。「豪放」と「繊細」この矛盾する気質を持って生まれるなんてことは奇跡でしかない。「黒部の太陽」では既得権を振りかざす五社協定に立ちばかり、これを崩すことになった。独立してからは「石原プロ」を見事にまとめ上げ、軍団が死後も二十数年間、作品を作り続ける力を与えた、彼の残した遺産、それは経済的なこともあるが、二十数年間も存続させるグループの団結力を、作上げた力の大きさでもあった。

引き継ぐことになった渡哲也が言ったそうだが「もしもだよ、社長が体だけ回復してここを出てゆくことになったら、あの人の命と俺の命と引き換えで、この俺が預かる。いいかそれが俺の出来る恩返しだ。」と、それはもう信頼しきった男と男の関係でもあった。

若い慶応の医師が慎太郎にいったそうだが。「私は今まで、周りがあんなに本気で懸命に看護するのを見たことはありません、普通の人間関係じゃ、だれもあそこまではしませんよ、あの人だからこそなんでしょうね。私達医者まで感動させられ、引きずられて行きましたよ」

彼の信条は「人の悪口は絶対するな、人にしてあげたことはすぐ忘れろ、人にしてもらったことは絶対忘れるな」こうやって彼は石原軍団をまとめ上げていった。

人の人生だ、悔いが残ったのか残らなかったのか、それは本人に属するものだ。もしあるとすれば健康の問題だろう。舌癌（43歳）。解離性大動脈瘤（46歳）、肝臓がん（50歳）、次々に襲ってくる病魔に彼は耐え抜いた。前にも書いたが「ガン」という病に「ひょっとしたら？」と思ったはずだ。全員がそのことだけは絶対口にしなかった。夫人もスタッフも慎太郎さえも、しかし一度だけ「これってガンだよな」と慎太郎に言ったそうなの。

天は二物を与えないといったが、与えた人をもう一人指名するとしたら大谷翔平だろう。能力もルックスも、人をまとめ上げる明るい性格も、そして何よりの健康まで与えている。しかし、ここまで書いてきて、なんとなく気になったのが、あの「水谷問題」だ、私はあの落着きに異論を持っているわけではない、しかし、もし裕次郎だったら、どうアクションしたんだろうか、そんなことまで考えさせる裕次郎の人となりを感じている。

あの「わが人生に悔いなし」は決して評判のいい曲ではない。朝日新聞の追悼版でもあんな元気のない歌を歌わせるべきではなかったと、そんなふうに書かれているが、間もなく消える者が力強く歌う歌でもあるまい。しみじみと彼は人生を振り返って歌ったのである。

桜の花の下で見る 夢にも似てる人生さ
純で行こうぜ 愛で行こうぜ 生きてるかぎり
りは青春だ

夢だろうと 現実（うつ）だろうと わが人生に悔いはない。

私にも近いうちにご指名がかかるが、私の場合「わが人生に悔いはない」とは決して言えないものがいっぱいある。しかしこれだけは言える、悔いはいっぱいあったが、「わが人生は楽しかった」と

手賀沼通信ブログ抜粋

手賀沼の若松側の堤防上の遊歩道が全面開通した（NO. 1883）（令和7年3月2日）

2025年3月1日、手賀沼の若松側の堤防上に作られた遊歩道が全面開通しました。手賀沼公園から手賀大橋のたもとまでです。

この遊歩道は以前からあった遊歩道に沿って、水害を防ぐために築堤された堤防上に新たに造成されたものです。計画上では10年以上前に完成する予定でしたが、堤防の工事中に東日本大震災が発生したり、地盤の弱いところが見つかって補強工事はいったり、資材高騰や人材不足などのため遅れに遅れてやっと完成したものです。

当初の計画では堤防上は歩かせず、築堤の内側に遊歩道が1本出来るはずでしたが、完成した遊歩道は堤防の上を歩くようになっていて、部分的に内側の道があるといった、いわば単線と複線が入り混じった不思議な形となりました。でも堤防上を歩けるようにしたのは正解でした。

今まで手賀沼が見られない遊歩道が20年以上続いていましたが、新しい遊歩道ができて手賀沼が見られるようになって清々した気持ちになりました。

3月2日写真を撮りました。手賀沼公園側の入り口です。



出口は手賀大橋の手前で、旧遊歩道に合流します。



途中にちょっとした広場があります。
旧遊歩道のそばにあった草原に手を加えて
しやれた休憩所に変えました。
新遊歩道から見下ろした光景です。



途中の下の新遊歩道から上の新遊歩道に登るための手すり付きの階段です。



手すりなしの階段です。



堤防上から見た眺めです。



午前中早かったのであまり人は歩いていませんでしたが、日曜日であって今日は多くの人が歩くでしょう。

どん亭の後にMACができた（NO. 1889）（令和7年3月21日）

2025年3月中旬、我孫子市若松にハンバーガーのマクドナルドがオープンしました。

この場所は昨年1月に閉店したしゃぶしゃぶのどん亭があったところです。

MACは我孫子駅前にもありますが、若松のMACは車での利用を前提にした店舗のようです。近くに我孫子市役所や我孫子高校はありますが、あまり歩いている人はいません。

手賀大橋に近く、県道船取線と手賀沼ふれあいラインの交差点のすぐそばなので、クルマの交通量は多く、車で来るには便利なところ。それと手賀沼の水の館や親水公園の観光客が目当てなのでしょう。ドライブスルーが売りのようです。



さっそくお彼岸の墓参りの帰りに妻と長女夫婦が買ってきて一緒に試食しました。私にとっては何十年ぶりかのMACのハンバーガーでした。

どん亭ではお正月など家族一同が揃うとき、集まって一杯やりながら会食ができたのですが、MACにはアルコール類がなく、会食ができないのが残念です。

ついにコロナにかかる（NO. 1891）（令和7年4月4日）

2025年3月31日、今までかからなかったコロナにかかりました。

夜中に熱っぽかったので体温を測ると37度、多少頭や体が痛く、あまり眠れませんでした。朝になると症状がおさまったので、気にしないで買い物をしたり、散歩したりしました。

ところがその夜、のどが痛くなりました。熱も38度ありました。4月1日の朝になってものどの痛みは消えません。咳も出ました。今まで何十年間、ほかの病気はいろいろ体験しましたが、およそ風邪とは縁のない日常でした。

妻の勧めで、コロナ全盛期に買ってあったコロナ検査キットで試してみました。検査不能の表示が出ました。有効期限が過ぎていたのでしょうか。4月3日に妻が新しい検査キットを買ってきました。それで試したところ陽性の判定が出ました。ついに今まですり抜けてきたコロナに捕まったのです。

私は妻と2人暮らしです。妻も私より1週間前から、同じ症状が出ていました。3日に一緒に検査したところ妻は陰性でした。おそらく妻もコロナにかかりそのときは治っていたのでしょう。私も症状はすべて消えていますが、しばらく外出は控えることにします。あと1週間もすれば陰性になると思われます。軽い症状で助かりました。

私はその後数日外出はせず、家で静かに過ごしました。ホームドクターは決めているのですが、そこはコロナの症状のある人は見てくれません。

症状は翌日には収まったのでどこにも連絡しませんでした。

コロナの扱いがどうなったかわからなかったこともありました。コロナはインフルエンザと同じ扱いと理解していますが、インフルエンザに罹ったことがないのです。

今は私と同じようにコロナにかかって自然に治る人がいるのではないかと思います。

時々コロナの統計が新聞に出ますが、そういう人は含まれないことがわかりました。